

文中の付表に掲載している計数は、それぞれを原則四捨五入しております。
また、金額が損失または減益の場合には、△を付しております。

平成24年11月14日

平成24年度第2四半期決算発表

三井住友フィナンシャルグループの平成24年度第2四半期決算について
ご説明致します。

お手元には、「平成25年3月期第2四半期決算短信」と
「平成24年度第2四半期決算説明資料」の2種類の資料をお配りしております。

それでは、決算内容について「平成24年度第2四半期決算説明資料」に基づいて
ご説明致します。

なお、当資料における【単体】は三井住友銀行の単体計数、
【連結】は三井住友フィナンシャルグループの連結計数でございます。

【三井住友銀行の単体業績】

まず、1頁をご覧ください。三井住友銀行の単体損益についてご説明致します。

表の中ほど22行目の業務純益（一般貸倒引当金繰入前）は、
前年同期比362億円減益の4,287億円となりました。

このうち、1行目に記載の業務粗利益は、前年同期比328億円減益の
7,867億円となりました。

これは、アジアを中心としたインフラファイナンスニーズへの積極的な対応等により
海外での貸出金残高が増加したこと等から、国際部門においては資金利益が増加した
一方、国内資金利益は資金需要低迷に伴う貸出金残高の減少を主因に、減益となった
ことに加え、

国債等債券損益においては、国内外の金利低下局面を的確に捉えたオペレーションの
実施により、相応に売却益を計上いたしましたものの、前年同期比では減益となった
こと等によるものです。

18行目の経費は、引き続き経常的な経費の見直しによる削減を行いました
一方、海外での人員増強や業務推進経費の増加等から、前年同期比やや増加し、
△3,580億円となりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		24年中間期	23年中間期比	23年中間期
業 務 粗 利 益	1	7,867	△ 328	8,195
(除 く 国 債 等 債 券 損 益)	2	(6,694)	(△ 257)	(6,952)
経 費 (除 く 臨 時 処 理 分)	18	△ 3,580	△ 34	△ 3,546
業 務 純 益 (一 般 貸 倒 引 当 金 繰 入 前)	22	4,287	△ 362	4,649
うち 国 債 等 債 券 損 益	26	1,173	△ 71	1,244

次に、臨時損益に移ります。

28行目の不良債権処理額に、29行目の貸倒引当金戻入益、30行目の償却債権取立益を加えた与信関係費用は、44行目に記載しております通り、前年同期比273億円改善し、244億円の戻入益となりました。

取引先企業の実態に応じたきめ細かな対応等により、新規のコスト発生が抑制されたことに加え、ポートフォリオの改善に伴う正常先の引当率の低下等により、引当金の戻りが発生したこと等が、前年同期比改善の要因であります。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		24年中間期	23年中間期比	23年中間期
一 般 貸 倒 引 当 金 繰 入 額	24	—	—	—
臨 時 損 益	27	△ 1,541	△ 868	△ 673
うち 不 良 債 権 処 理 額	28	△ 144	8	△ 152
うち 貸 倒 引 当 金 戻 入 益	29	388	268	120
うち 償 却 債 権 取 立 益	30	0	△ 3	3
与 信 関 係 費 用 (24 + 28 + 29 + 30)	44	244	273	△ 29

31行目の株式等損益は、国内株式相場の下落を受け、34行目の株式等償却が増加したこと等により、前年同期比875億円悪化し、△1,336億円の損失となりました。

[三井住友銀行単体]

(金額単位 億円)

		24年中間期	23年中間期比	23年中間期
株 式 等 損 益	31	△ 1,336	△ 875	△ 461
株 式 等 売 却 益	32	202	77	125
株 式 等 売 却 損	33	△ 38	△ 28	△ 11
株 式 等 償 却	34	△ 1,499	△ 924	△ 575

以上により、36行目の経常利益は、前年同期比1,230億円減益の2,745億円となりました。

41行目の法人税等は688億円の費用、42行目の税効果会計による法人税等調整額は、363億円の会計上の益となっております。

これらを合計した税負担額は325億円の費用と、税引前中間純利益に対する比率は、実効税率を下回っておりますが、これは貸倒引当金の取崩し等に伴い、繰延税金資産に係る評価性引当額が減少したこと等によるものです。

以上の結果、43行目の中間純利益は、前年同期比で509億円減益の2,397億円となりました。

					24年中間期	23年中間期比	23年中間期
経常利益	36				2,745	△ 1,230	3,976
特別損益	37				△ 23	△ 29	5
税引前中間純利益	40				2,722	△ 1,259	3,981
法人税、住民税及び事業税	41				△ 688	△ 536	△ 152
法人税等調整額	42				363	1,286	△ 923
中間純利益	43				2,397	△ 509	2,906

【三井住友フィナンシャルグループの連結業績】

次頁には三井住友フィナンシャルグループの連結損益の内訳をお示ししております。

先程ご説明しました三井住友銀行では1,230億円の経常減益となりましたものの、昨年12月に新たに連結子会社となったSMBCコンシューマーファイナンスの利益寄与がありましたこと等から、18行目の経常利益は前年同期比783億円減益の4,682億円。

また、27行目の中間純利益は、前年同期比173億円増益の3,310億円となりました。

					24年中間期	23年中間期比	23年中間期
連結粗利益	1				13,718	499	13,219
営業経費	7				△ 7,218	△ 281	△ 6,938
不良債権処理額	8				△ 585	△ 152	△ 434
貸倒引当金戻入益	13				52	△ 90	141
償却債権取立益	14				54	41	12
株式等損益	15				△ 1,329	△ 1,207	△ 121
持分法による投資損益	16				57	463	△ 406
その他	17				△ 66	△ 57	△ 9
経常利益	18				4,682	△ 783	5,465
特別損益	19				△ 31	△ 20	△ 11
中間純利益	27				3,310	173	3,138
与信関係費用 (8 + 13 + 14)	28				△ 480	△ 200	△ 280

【有価証券評価損益】

次に有価証券の評価損益についてご説明致しますので、4頁をご覧ください。
下段に三井住友フィナンシャルグループ連結の有価証券評価損益を取り纏めて
おります。

表中の「その他有価証券」の評価損益は、株式は1,274億円のプラス、
債券は1,150億円のプラス、その他も555億円のプラスとなり、
全体では24年3月末比1,770億円減少の2,979億円のプラスとなりました。

【三井住友フィナンシャルグループ連結】 (金額単位 億円)

	24年9月末			
	評価損益		評価益	評価損
		24年3月末比		
その他有価証券	2,979	△ 1,770	6,011	3,031
株式	1,274	△ 1,441	3,698	2,424
債券	1,150	32	1,209	59
その他	555	△ 362	1,103	548

【B I S 自己資本比率】

7頁には、連結自己資本比率について、速報値でお示ししております。

24年9月末の連結自己資本比率は17.63%、
24年3月末比では中間純利益の計上に伴う利益剰余金の増加や、
貸出金の減少に伴うリスクアセットの減少等により0.70%の上昇、

また、Tier I比率は13.18%と、24年3月末比では0.90%
上昇しております。

【三井住友フィナンシャルグループ連結】 (単位 %)

	24年9月末		24年3月末
	[速報値]	24年3月末比	
連結自己資本比率 (第一基準)	17.63	0.70	16.93
Tier I比率	13.18	0.90	12.28

【不良債権の状況】

次に不良債権の状況についてご説明致します。
8頁をご覧ください。

表の左下にございます、金融再生法に基づく開示債権残高の合計額につきましては、
24年3月末比492億円減少の1兆1,336億円となりました。

また、その右上にお示ししております、正常債権を含めた与信合計に対する不良債権比率は、24年3月末比0.08%低下の1.78%と引き続き低い水準を維持しております。

[三井住友銀行単体]		(金額単位 億円)		
	24年9月末	24年3月末比	24年3月末	
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	1,475	131	1,344	
危険債権	7,180	△ 616	7,796	
要管理債権	2,681	△ 7	2,688	
合計(A)	11,336	△ 492	11,828	
正常債権	626,086	1,150	624,936	
総計(B)	637,422	657	636,764	
不良債権比率(A/B)	1.78%	△ 0.08%	1.86%	

【平成24年度業績予想】

続きまして、平成24年度の業績予想について、19頁をご覧ください。

まず、三井住友フィナンシャルグループ連結の24年度業績予想ですが、

経常利益 は、8,300億円、
 当期純利益は、5,400億円と前回公表予想から600億円の増益を、
 見込んでおります。

また、三井住友銀行単体の業績予想は、

業務純益 は、7,700億円、
 与信関係費用は、△ 800億円、
 経常利益 は、4,900億円、
 当期純利益 は、4,000億円と前回公表予想から200億円の増益を、
 見込んでおります。

次に、平成24年度の普通株式1株当たり配当予想ですが、
 5月予想通りの年間100円、中間配当をその半分の50円とさせて頂く予定で
 あります。

【平成24年度経営方針と中間期実績】

次の20頁には、平成24年度経営方針と中間期実績をお示ししております。

当社グループでは、平成24年度の経営方針を、「プロアクティブな発想・行動で、変化をもたらすチャンスを的確に捉え、中期経営計画の実現に向けて着実に前進」とし、引き続き、「クロスセル」、「クレジット・コントロール」、「コスト・コントロール」の「3つのC」を徹底しつつ、「戦略事業領域の強化」と「業務戦略を支える確固たる企業基盤の確立」に取り組んでおります。

下段には、中間期実績をお示ししております。

まず業績につきましては、5月予想と比べますと、三井住友銀行単体においては、株式の減損等が発生したものの、市場営業部門が好調であったほか、与信関係費用が減少したこと等から、中間純利益は、397億円増益の2,397億円となりました。

また、三井住友フィナンシャルグループ連結の中間純利益は、三井住友銀行に加え、グループ各社の貢献により、810億円増益の3,310億円となりました。

次に、戦略施策につきましては、アジアを中心とする新興国の拠点網拡充やナショナルスタッフの育成・登用を進めたほか、RBSグループからの航空機リース事業の共同買収を完了し、SMBCアビエーション・キャピタルとして営業を開始するなど、グローバル展開を着実に進めました。

銀証連携では、SMBCとSMBC日興証券の銀証口座連携サービス「バンク&トレード」の提供を10月に開始するなど、連携を一段と強化いたしました。

また、SMBC日興証券では、内部管理態勢の強化に全力で取り組んでおります。

コンシューマーファイナンス事業では、グループ各社間の連携強化及びグループ一体での機動的な意思決定を行う体制とするため、プロミスを完全子会社化し、SMBCコンシューマーファイナンスと社名変更したほか、オリックス・クレジット株式のオリックスへの譲渡や、SMBCコンシューマーファイナンスにおけるモビットの合弁解消等、経営資源の選択と集中を図りました。

これらの戦略施策を進めました結果、中期経営計画の財務目標値につきましては、バーゼルⅢ完全実施時基準のコアTier I比率は7%台半ばとなりましたほか、海外収益比率も30%に上昇する等、各項目とも着実に進捗しており、25年度の目標値を概ね達成することが出来ました。

当社グループは、引き続き、環境変化に対し、常に一步先を読み、機動的な対応を図っていくことで、株主価値の増大に努め、グローバルにもトップティアの金融グループを目指してまいります。

以上で説明を終わらせていただきます。

以 上